

バイオマス活用アドバイザー プロフィールシート

	【名前】 山本 一
	【現職（所属）】 株式会社サムズファーム 代表取締役
【略歴】 平成12年・石川県加賀市の大同工業株式会社の子会社の株式会社大同テクノにて移動式食リカーの普及に従事。一般的堆肥から脱皮し、食品残さを用いて生成工程から研究。作物別に肥料効果のある有機肥料として差別化が図れる堆肥を開発。産学官(石川県、加賀市、北陸先端科学技術大学院大学、地元収運事業者)にて、「これは肥料です」と評価を得る。平成18年・奈良県橿原市において合同会社にノウハウ提供、食リループ実践研究に取り組む。平成22年・奈良県農業総合センターと一般圃場活用に向け共同研究(1年間)に取り組み、一般圃場施肥を得て、肥料としての効果を実証する。平成23年度より一般農家に向け販売、高評価である。	
【得意分野】 食品残さにおける有機肥料生成技術	
【バイオマス利活用に関する取組・一言コメント】 廃掃法が食リループの大きな障壁になっており、大部分の食品残さ(以下、食残)が焼却されている。食残のバイオマス利活用は、分別の究極であり、そこから多くのリサイクル資源が回収されるのである。特に食残は焼却のガンであり、熱量供給に化石燃料、廃プラ、紙の資源が灰にされ、CO ₂ が排出される。究極的なコメントだが、食残の大部分が利活用されれば、化石燃料の代わりに木質バイオマスの活用、廃プラ、紙は再資源化へ利活用され、CO ₂ は大きく削減される。また有機農業の推進、作物栄養価の充実効果は健康寿命の増大が考察できる。二次的には、化成肥料製造工程におけるCO ₂ 軽減等の効果まで含まれる。さらに地方自治体の焼却炉の延命から設備の軽減効果から市民への行政サービス向上へ発展できるのである。現在ある地方自治体にて市民とともに3年の市補助事業に取り組んでいる。そして、バイオマス利活用農場を立ち上げ、その一歩をあゆみ始める。	